

# 第5学年防災教育学習指導案（総合的な学習の時間）

## 1 単元名 「災害に備える」（全3時間）

### 2 単元設定の理由

現代社会は、毎日の生活の中に事故や事件、災害など様々な危険が存在している。それは地域社会で暮らす児童もいつ、どこで、何が起きるか予測の難しい中で様々な危険と隣り合わせで過ごしている。特に災害への対応については、平成30年7月に起きた西日本豪雨の教訓を生かし、児童一人一人の防災意識を高めることは喫緊の課題となっており、防災教育を通して、自分の命を自分で守るために必要な知識や技能を身に付け、身に付けた知識や技能を児童自身が活用していくことが求められている。

そこで、5年生では、地域で起こりうる水害（土砂災害）のリスクや、そのメカニズム、学区内の「安全な場所」「危険な場所」について知り、災害が発生した時に「いつ」、「どうやって」避難すればよいのかを考え、マイ・タイムラインの作成を通じて、自分で判断して命を守るための適切な行動を取ることができる力を身に付けることができるように単元を設定した。また、学校での学習だけで終わることがないように、学校で学んだことを家庭に持ち帰り、家族を巻き込んで一人一人の児童が中核となって家族と共に災害発生時の行動や避難場所について話し合ったり、自らマイ・タイムラインの第2案、第3案を作成したりすることができるようにしたい。

### 3 単元目標

マイ・タイムラインの作成を通して、自分の住むまちの災害の危険性を知り、被害を軽減しようとする意欲を高めるとともに、自分の住むまちの避難場所を確認し、災害時、自分で考えながら適切に行動できるようにする。

### 4 単元で育てようとする資質や能力及び態度

知識・技能	災害における危険や避難行動についての理解を深め、地域における災害リスクに対応した知識・技能を身に付ける。
思考力・判断力・表現力	地域の災害リスクから問題を見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
学びに向かう力・人間性	探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

### 5 単元の評価規準

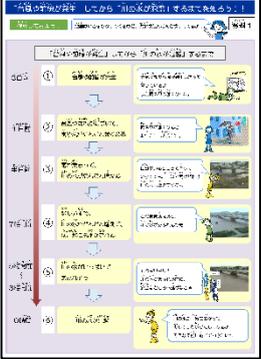
評価の観点	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会に関すること
評価規準	地域の災害リスクを把握するとともに、災害時の避難場所や避難方法など災害から命を守るための知識や技能を身に付けている。	災害発生時に自分の命を守るためにどのようにすればよいかを考え、適切に状況を判断し、行動することができる。	マイ・タイムライン作りを通して、家族で防災について話し合ったり、地域の防災活動に積極的に関わろうとしたりする。

## 6 指導計画

テーマ 時数	主な学習活動	指導上の留意点	時間
マイ・タイムラインをつくらう (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水害から命を守るための方法を考える。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川の水が氾濫するまでの過程を知る。</li> <li>・ ハザードマップについて知る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 洪水の仕組みについて理解させ、早期避難の必要性を実感させる。</li> </ul>	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水害から命を守るための方法を探究する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 逃げキッドを使って備えについて考える。</li> <li>・ 警戒レベルについて知り、避難準備行動について考える。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川が氾濫する前の安全な時期に避難をすることが最良の考え方であることに気付かせ、事前の避難準備の大切さを意識させる。</li> </ul>	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ マイ・タイムラインをつくる。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マイ・タイムラインづくりをする。</li> <li>・ 図上訓練をする。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タイムラインを作成するにはどの情報をもとに考えたかを意識させる。</li> </ul>	1

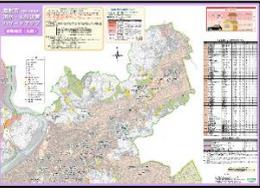
## 7 本時案

### (第1時)

目 標	地域の災害リスクを把握するとともに、災害時の避難場所や避難方法など、災害から命を守るための知識を身に付けることができる。	
学習活動	指導上の留意点	教材
1 過去の身近な災害について知る。	○ 写真やその他の資料を提示することで、過去の風水害についてどのようなことがあったのか確認できるようにする。(西日本豪雨について、第4学年「社会科」副読本「3 自然災害から暮らしを守るはたらき」で既習)	<b>【過去の災害】</b>  
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           ※被災した児童など資料の提示に配慮が必要な場合は、取り扱う資料の精選や、この活動を取りやめるなど各学校の実態に合わせて柔軟な対応が必要である。         </div>		
2 避難することの大切さについて知る。	○ 西日本豪雨の甚大な被害を振り返ることで、災害発生時に被害を少なくするために必要なことや自分たちにできることを考えることができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報</li> <li>・ 事前の備え</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           水害から命を守るために大切なことを考えよう。         </div>		
3 「川の水が氾濫する」仕組みを知る。	○ 川の水が氾濫する過程について、時系列に沿って説明することで、洪水は突然起きるのではなく、起きるまでに時間があることを知り、その間に避難行動ができることに気付くことができるようにする。 ○ 時間が経つとともに状況が悪くなることを確認することで、早めの避難行動が命を守ることにつながることに気付くことができるようにする。	<b>【台風や前線が発生】してから「川の水が氾濫」するまでを知ろう!!!</b> 
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           ※用水路が多い学区については、大きな河川の外水氾濫だけでなく、用水路や地下水からの内水氾濫も起きる可能性があることもふれること。         </div>		

- 4 ハザードマップについて知る。
- ハザードマップは、想定される災害毎に作成されていることについて説明することで、災害の種類によって、確認するハザードマップが違うことを知ることができるようにする。
  - 洪水・土砂災害のハザードマップのよみ方について説明することで、浸水深や指定緊急避難場所が記されていることに気付くことができるようにする。
  - 学区のハザードマップを提示することで、自分の家が安全かどうか確認し、災害発生時の避難場所を設定できるようにする。
  - ペアで話し合わせることで、設定した避難場所が適切か確認できるようにする。

【倉敷市ハザードマップ】



【倉敷市ハザードマップ（学区版）】



※土砂災害や高潮、津波の危険がある学区については、洪水想定を置き換えて学習してもよい。土砂災害を想定して学習を行う場合は、内閣府が作成した「学校における非難に関する防災教育事例集（水害・土砂災害）」及び「巻末資料」の高知県本山町立吉野小学校の実践を参考にしながら、各学校の実態に合わせて学習を行うようにすること。置き換えない場合でも、土砂災害警戒区域や到達時間、避難場所についてはふれるようにすること。

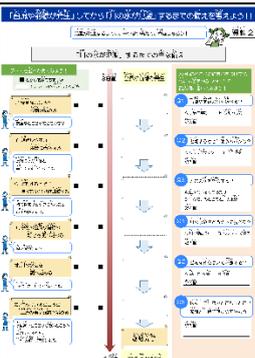
※避難場所の考え方としては、災害発生時に命を守るための緊急避難場所としてとらえること。避難先の設定にあたっては、ハザードマップの白い区域が理想ではあるが、使用するマップにより浸水域は変わることについては必ず指導すること。浸水域内であっても浸水の深さ以上が確保された自宅の2階以上や近隣の高い建築物等でも避難先として設定してもよいことに留意すること。

- 5 本時の学習のまとめをする。
- 板書をもとに、本時の学習で大切なことを確認することで、まとめることができるようにする。
- 6 本時の学習を振り返る。
- 本時の学習を振り返り、「川の水が氾濫する」仕組みや、設定した避難場所は一例であり、その時の状況に応じて変わることや、臨機応変に対応することが大切だということに気付かせ、各家庭で学んだことを家族と話し合うことが重要なことを伝えるようにする。
- 7 次時の学習について知る。
- 次時は、実際に「いつ」「どうやって」逃げればよいのか自分で考える活動を行うことを知らせるようにする。

評価 地域の災害リスクを把握するとともに、災害時の避難場所や避難方法など、災害から命を守るための知識を身に付けている。

【知識・技能】（発言・ワークシート）

(第2時)

目 標	風水害の際に時々刻々と出される、避難情報、防災気象情報について、情報の収集方法、情報に基づいた避難行動を考えることができる。	
学習活動	指導上の留意点	教材
<p>1 ここまで学習してきたことを確認し、本時のめあてをつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ハザードマップから分かること振り返ること、本時の学習内容を理解できるようにする。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難場所</li> <li>・ 浸水の深さ</li> </ul> </li> <li>○ 学区ハザードマップの「白いところ」について確認する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「白いところ」はどんなところか                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・ このマップでは浸水しない安全なところ</li> <li>・ 白いところを目指して避難するとよい</li> </ul> </li> <li>● 学区の「白いところ」を具体的には                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ●●●●</li> <li>・ ■■■■</li> <li>・ ▲▲▲▲</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○ 本時は、「いつ」「どうやって」避難すればいいか考える活動であることを伝える。</li> </ul>	<p>【倉敷市ハザードマップ（学区版）】</p> 
<p>水害から命を守るために、大切な「いつ」「どうやって」について考えよう。</p>		
<p>※土砂災害や高潮、津波の危険がある学区については、洪水想定を置き換えて学習してもよい。土砂災害を想定して学習を行う場合は、内閣府が作成した「学校における非難に関する防災教育事例集（水害・土砂災害）」及び「巻末資料」の高知県本山町立吉野小学校の実践を参考にしながら、各学校の実態に合わせて学習を行うようにすること。置き換えない場合でも、土砂災害警戒区域や到達時間、避難場所についてはふれるようにすること。</p>		
<p>※マップの「白いところ」が学区に無い場合は、浸水想定区域外への避難を基本とするが、そのいとまがない場合は、マップ内避難場所一覧の「洪水▲」の避難場所も使用できる。また、浸水の深さ以上が確保された自宅の2階以上や近隣の高い建築物等を避難先として設定してもよい。ただし避難先は家族と相談して複数箇所を設定するようにする。</p>		
<p>2 川が氾濫するまでにしておく事前の備えについて学習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 情報を確認する際、何を使って情報を収集するとよいか確認する。</li> <li>○ 台風が発生してから、川が氾濫するまでに時間には余裕があることから、事前の準備ができることに気付くことができるようにする。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族の事情</li> <li>・ 台風の大きさ、動き、今後の風・雨量</li> <li>・ 川の様子</li> </ul> </li> <li>○ 教材を用いて、川の水が氾濫するまでの備えについて考えることができるようにする。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 準備をすることの順番</li> <li>・ 絶対にしてはいけないこと</li> </ul> </li> </ul>	<p>【「台風や前線が発生」してから「川の水が氾濫」するまでの備えを考えよう！！】</p> 

※想定災害として土砂災害を扱っている場合は、土砂災害の発生は突発性が高いが、地域の地形や雨量、震度、周辺の異音などから危機に対する意識をもつことが大切であることをとらえさせる。

3 川の氾濫が迫り、実際に避難に至るまでの判断について考える。

- 避難をするときに大切なことについて考えることができるようにする。
  - ・ 情報の入手 テレビ、インターネット
  - ・ 持っていくもの 服装、携行品、リュック
  - ・ しておくこと 連絡 避難先と経路の確認
- 避難するタイミングについて気付くことができるようにする。
  - ・ タイミングを知らせるアナウンス
  - ・ 「警戒レベル」の意味や備え
  - ・ 高齢者等がいる場合は警戒レベル3で避難
  - ・ 警戒レベル4では全員が避難

4 マイ・タイムラインについて知らせる。

- 避難するには、事前の備えや行動を計画しておくことが大切であることを知らせ、その作成に必要な要素について考えることができるようにする。
  - ・ 「いつ」避難するのか
  - ・ 「どうやって」避難するのか
  - ・ どの人にも共通して知っておくことや準備しておくこと
  - ・ 各家庭独自で知っておくことや準備しておくこと
- 次回の活動でマイ・タイムラインを作成することを知らせる。

5 本時の学習のまとめをする。

- 水害から命を守るためには、警戒レベルについて知り、準備物や移動の仕方などについて事前に考えておくことが大切であることを確認する。
- マイ・タイムラインを作成する際、家庭の状況や立地、特別な事情などを家族と共有することにより、より自分に合った避難の仕方になることを知らせ、「マイ・タイムライン作成のためのチェックリスト」を用いて必要な要素について準備してくることを確認する。

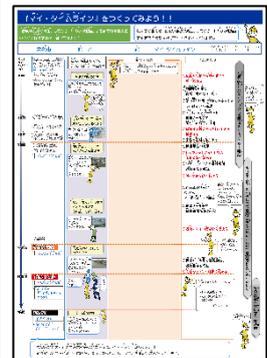
6 これまでの学習を振り返る。

- 事前に考えておくことについて、家庭で話し合ったり、共有したりすることが大切であることに気付くことができるようにする。
- 事前の行動は一つではなく、その時やその場に臨機応変に行動することが大切であることに気付くことができるようにする。

【警戒レベルとは】



【『マイ・タイムライン』をつくってみよう!!】



【マイ・タイムライン作成のためのチェックリスト】

The checklist is titled 'マイ・タイムライン作成のためのチェックリスト' and includes the following items:
 

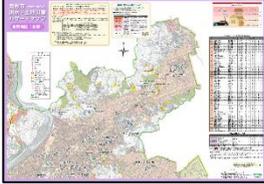
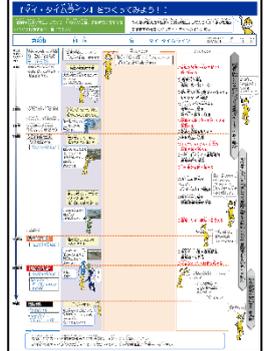
- 準備物 (Preparation items)
- 避難経路 (Evacuation route)
- 避難先 (Evacuation destination)
- 連絡先 (Contact information)
- その他 (Others)

評価

風水害の際に時々刻々と出される、避難情報、防災気象情報について、情報の収集方法、情報に基づいた避難行動を考えている。

【知識・技能】(発言・ワークシート)

(第3時)

目 標	災害発生時に自分の命を守るために、いつ、どのようにすればよいかを考え、適切に状況を判断し、行動することができる。	
学習活動	指導上の留意点	教材
<p>1 ここまで学習してきたことを確認し、本時のめあてをつかむ。</p> <p>※マップの「白いところ」が学区に無い場合は、浸水想定区域外への避難を基本とするが、そのいとまがない場合は、マップ内避難場所一覧の「洪水▲」の避難場所も使用できる。また、浸水の深さ以上が確保された自宅の2階以上や近隣の高い建築物等を避難先として設定してもよい。ただし避難先は家族と相談して複数箇所を設定するようにする。</p>	<p>○ 以下の内容について振り返りを行うことで、本時の学習内容を理解できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハザードマップを確認して分かったこと。</li> <li>・ 避難の際の留意点、携行品、避難を開始するきっかけ。</li> </ul> <p>マイ・タイムライン作りを通して、命を守るために大切なことを考えよう。</p>	<p>【倉敷市ハザードマップ】</p>  <p>【警戒レベルとは】</p> 
<p>2 マイ・タイムラインの作成方法を確認する。</p> <p>3 マイ・タイムラインを作成する。</p> <p>※想定災害として土砂災害を扱っている場合は、土砂災害の発生は突発性が高いが、土砂災害警戒区域内に居住している場合は「警戒レベル」や「土砂災害警戒情報」など何らかのタイミングから避難行動を開始することができるようにする。</p>	<p>○ マイ・タイムラインは、家族で共有するため、大人も利用できる記入様式になっていることを説明する。</p> <p>○ 「主な備え」の覧には、シールを貼って、回答を作成するようにする。但し、シール以外の回答は、余白に自由に記載することを説明するようにする。</p> <p>○ 台風や河川の状況、発信される情報を確認しながら、シールを貼ったり、備えを書き込んだりする。</p> <p>○ 適宜、チェックリストを確認してよいことを伝え、自分に合った避難の仕方考えることができるようにする。</p> <p>○ グループで、作成したマイ・タイムラインについて意見を交換することで、よりよいタイムラインを作ることができるようにする。</p>	<p>【『マイ・タイムライン』をつくってみよう!!】</p>  <p>【マイ・タイムライン作成のためのチェックリスト】</p> 
<p>4 図上訓練の練習をする。</p>	<p>○ 図上訓練の手順を説明し、内容を理解できるようにする。</p> <p>○ 3日前の「台風や前線が発生」の所を全体で行い、「今、何をしているか。」尋ねることで、訓練の仕方について理解しているか確認を行うようにする。</p>	

5 図上訓練を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安全な所へ移動を始めるタイミングで帽子を赤色に変えることで、自分の命を守るための行動は、人によって異なることに気付きやすくする。</li> <li>○ 警戒レベル3・4が発令された時には、活動を止め、グループで「今、何をしているか。」を交流することにより、一人一人が自分に合った行動をすることが大切だと気付くことができるようにする。</li> </ul>	
6 訓練を振り返り、マイ・タイムラインを見直す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 訓練を振り返り、備えを付け加えたり、シールを貼り替えたりすることで、より自分に合ったタイムラインを作ることができるようにする。</li> </ul>	
7 本時の学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 警戒レベル3で避難をした人や、避難しなかった人に「なぜそうしたのか。」尋ねることで、命を守るための行動はそれぞれに異なり、自分で考え、判断することが大切であるということを確認する。</li> </ul>	
8 これまでの学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ マイ・タイムラインは一通りではなく、災害時の状況に合わせて臨機応変に行動することが大切であることに気付くことができるようにする。</li> <li>○ 本時の学習で身に付けた力を生かし、自分や家族の命を守るためによりよい方法を考え続けていくことが大切であることに気付くことができるようにする。</li> <li>○ 本日作成したマイ・タイムラインを家庭に持ち帰り、家族と共有や意見の交換を行うことを促すようにするとともに、マイ・タイムラインの2通り目、3通り目を自力で作成していく必要性を感じることができるようにする。</li> </ul>	
評価	<p>災害発生時に自分の命を守るために、いつ、どのようにすればよいかを考え、適切に状況を判断し、行動している。</p> <p style="text-align: right;">【思考力・判断力・表現力】(発言・ワークシート)</p>	